

【資 料】

学士課程における離島実習の学びに関する文献検討

Literature Review about The Learning of The Remote Island Training in the Bachelor Education

田中 克子, カルデナス 暁東

Tanaka Katsuko, Xiaodong Cardenas

キーワード：離島実習, 学び, 看護

Key Words : remote island training, learning, nursing

I. はじめに

慢性成人期看護学領域において、4年生の広域統合実習のプログラムの1つとして離島の沖永良部で臨地実習を行うようになって5年間が経過する。そして、離島実習を通じてさまざまな地域で暮らす人々の生活と地域での看護職者の役割を学んできた。

看護の学士課程に示されているモデルコアカリキュラムには、地域ケアシステムの構築により、地域におけるヘルスプロモーションや予防も含め、その役割や活動場所の多様化が進む中で、看護職者には、さまざまな場面で人々の身体状況を観察・判断し、状況に応じた適切な対応ができる看護実践能力が求められている（大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会，2017）。

離島においては、看護の対象が乳幼児から高齢者と幅広く、看護の内容も怪我を含めた急性疾患、慢性疾患、終末期、病気の予防など幅広い対応が求められる（野村他，2011）ため、一体化した看護ケアを学ぶには最適なところであると考えられる。

また、医療者として、地域独自の多様な地域・生活に触れ、人間のありように対する感性を養う機会になる（田野他，2011）。このことから、離島にお

ける実習は、看護職者として将来の幅広い活動につながるものと期待されている。このように、離島実習の体験の有用性が指摘されていることから、前述したようにモデルコアカリキュラムで期待されている地域ケアシステム、文化や生活の多様性に対応できる能力を育成するには、離島実習に取り組む価値は十分にあると考える。

今後、離島実習をさらに意義あるものとするために学士課程において、離島での臨地実習を行った研究から、これまで得られた知見を概観するとともに、離島における臨地実習の学びについて検討することを目的とする。

II. 研究方法

1. 対象文献の方法および対象文献の選定

Web版医学中央雑誌データベース検索サービス（Latest Update; 2019.04.01）を用い、2020年7月15日に文献検索を行った。キーワードは「看護教育」&「臨地実習」&「離島」or「島嶼」or「島しょ」とし、条件を「原著」「看護」とした結果、62件が抽出された。その中から、文献内容を確認し、看護学士課程において離島での臨地実習を実施し、その

臨地実習に参加した学生の学びに言及している文献6件を選定した。さらに、本研究と関連があると考えられる文献を手作業で探索して1件の文献を追加した。以上7件の文献が本研究の文献対象となった。

2. 分析方法

分析の視点「離島における臨地実習の学び」に沿って対象文献の著者、発行年、タイトル、研究目的、研究方法、学びの概要をまとめ、マトリックス表を作成した。7件の対象文献から、モデルコアカリキュラムの7つの大項目【A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力】【B 社会と看護学】【C 看護の対象理解に必要な基本的知識】【D 看護実践の基本となる専門基礎知識】【E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識】【F 臨地実習】【G 看護学研究】に沿って、離島実習の学びに関する内容をできるだけ表現をそのままにして、大項目に一番合う項目に分類整理し、表を作成した。なお、学びの内容が、重複する内容は*を記し整理した。共同研究者間で合意が得られるまで内容を確認した。

Ⅲ. 結果

1. 対象文献の概要

対象文献の結果の概要は表1に示している。離島実習経験学生のレポート分析が1, 4, アンケート調査が3, レポート分析とアンケート調査が5, 学生のレポート分析と指導者へのアンケート調査が6, 学生の自己評価が7, 離島への看護学教育への取り組みの現状と効果についての書面調査と離島看護学教育を展開している大学の訪問調査が2, であった。対象学生は、4年生が1. 3. 5. 6. 7であった。実習の内容は、地域看護実習1. 3, 離島保健看護実習5, 総合実習6. 7, であった。医学部医学科, 保健医療学部（看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科）の1年生を対象とした離島地域医療実習が4, で、へき地離島教育を何らかの形で実施している大学を対象としているのが2, であった。臨床実習の日程は3日間～12日間であった。学びは7つの文献から合計41項目挙げられた。

2. モデルコアカリキュラムの大項目に沿って整理した学び

モデルコアカリキュラムの大項目に沿って整理した学びは表2に示している通りであった。【A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力】には、「地域で働く医療人に必要な資質」「実践力・地域力への貢献」「島嶼への理解の深まり」「看護観の発展について学習の深まり」他10項目、【B 社会と看護学】には、「地域の実態の理解」「島しょの特徴を知る」「島しょの健康問題の理解」「島しょ活動を考える」「地域住民の健康状態の把握」他14項目、【C 看護の対象理解に必要な基本的知識】には、「自宅での居住生活を理解することの重要性」「利尻島の自然と人々の生活が密接につながっている感覚」他3項目挙げられた。

【D 看護実践の基本となる専門基礎知識】には、【A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力】と重複するが、島しょ看護学教育を取り入れている大学の調査であり、基礎看護のみならず専門職基礎知識の向上もあると考え「学習力・教育力・看護力の向上」に再掲された。【E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識】には、「保健活動の実際」「診療所活動の実際」が挙げられた。【F 臨地実習】には「実習中に行った仲間づくり」が挙げられた。【G 看護学研究】には、なにも挙げられなかった。

3. 実習対象地域

7件の文献のうち、研究対象になっている島は、三重県3, 北海道4, 長崎県6, 7, 沖縄県5, 地域は特定できないのが1, 2であった。

Ⅳ. 考察

1. モデルコアカリキュラムの大項目からみた離島実習の学び

項目数の多かったモデルコアカリキュラムの大項目からみた学びを概観する。

島での学びの項目で19項目と最も項目が多かったBの【社会と看護学】は、人々の暮らしを支える地域や文化, 社会システムと健康, 看護職の役割について修得する内容であった。次に14項目と項目

表1 学士課程における離島実習の学びに関する文献検討

番号	著者(年)	論文名	研究目的	研究方法	学びの概要
1	Yonemasu Accdan Naomi et al(2019)	離島での地域看護実習による学生の学び(Students' Learning from Community-based Nursing Clinical Practice in a Remote Island)(英語)	離島での地域看護実習の学びの成果を得る	保健学科4年生地域看護実習の学生5名を対象に、鹿児島県から450km離れた離島で5日間の日程で看護実習を行った。初日にオリエンテーション、第2～4日に在宅看護、消防署訪問および診療所実習などを行い、最終日に学習成果のプレゼンテーションを行った。学生のレポートの分析を行った。	1)「地域の実態の理解」2)「住民意識への環境の影響の理解」3)「住民同士のつながり」の中での生活の理解」4)「自宅での居住生活を理解することの重要性」5)「コミュニティーを知ることにより人を理解できること」。「医療と福祉の資源が不十分」「居住者のつながり、相互扶助能力が健康と生活に与える影響」
2	山崎 不二子他 (2016)	看護学士課程における島嶼看護学教育の効果と課題	島嶼看護学教育の看護学士課程への導入促進する	日本看護系大学に加入している大学181校を対象に島しょ看護学教育への取り組みの現状(教育科目、評価方法、自由記述等)の書面調査と、取り組んでいる37校のうち同意が得られた大学に対して、島しょ看護学教育の経緯と理由・大学への影響・効果、課題取り組み等について訪問調査を行った。	(1)「島嶼への理解の深まり」(2)「島嶼看護の魅力と理解」(3)「学習力・教育力・看護力の向上」(4)「実践力・地域力への貢献」「地域の力を活かし互いに連携協働していく看護力や実践力等を学習」「島しょの特徴を知る」「島しょの健康問題の理解」「島しょ活動を考える」
3	目良 宣子他 (2014)	地域看護活動論実習の現状と課題 離島実習終了後の学生アンケートの分析結果より	地域看護活動論実習の実習体験による学生の学びを明らかにする	4年生の統合実習の離島(保健師のいない三重県鳥羽市の菅島、神島)実習2泊3日を実施した21名、県内(奈良県)6市町村における市町村実習を実施した48名へアンケート調査(自由記述を実習先でよかった点、課題に分類した)を行った。	「学生が主体的に企画・実施し、評価まで行った健康教室における実践に対する高い満足度」「島民との交流が深まるにつれ、生活と健康との関連についての理解も深まり健康相談など実施」
4	仲田みぎわ他 (2010)	利尻島における離島地域医療実習から得た学生の学びー参加学生の実習後レポートの分析ー	利尻島における『離島地域医療実習』の参加学生に、学生がどのような学びを得ていたのかを明らかにする	本学医学部医学科、保健医療学部(看護学科、理学療法学科、作業療法学科)の1年生を対象に実施された、利尻島における『離島地域医療実習』5日間の参加学生に、実習に対する実習参加者35名中32名の学生からレポートの提出があった。① 自己目標、② 自己目標に対する自己評価、③ 実習での学び・感想からなるレポートを課し、その記述内容を分析した。	「利尻島の自然と人々の生活が密接につながっている感覚」「体験し見えてきた離島の暮らし」「利尻島の小学生が教えてくれた子どもの時空」「利尻島の人々の健康」「利尻島の医療の現状」「地域で働く医療人に必要な資質」「医療福祉サービスを受ける人とかかわる体験」「触れたあたたかな心」「実習中に行った仲間づくり」「意識させられた学習の不足」「明確になった地域医療に対する自己の意識」「自己への気づき」
5	川崎 道子他 (2007)	「島しょ保健看護論」の授業評価 講義・演習・学外演習(離島訪問)を通して	選択科目「島しょ保健看護論」4年生の授業評価を得る	沖縄県の有人離島に実習した県立看護大学4年次生37名へのアンケート調査、実習後の個人レポート(学んだという記述を抽出して授業目標ごとに分類)の分析から検討した。	「保健活動の実際」「島しょの定義・特徴」「診療所活動の実際」
6	山崎 不二子他 (2007)	しまにおける総合実習での学びの到達レベルとその特徴	本看護学科で4年次に実施している「総合実習;しまの健康」2週間の実習の今後の実習展開の資料を得る	上五島・下五島・老岐・対馬で総合実習を行った学生141名(同意が得られた人:139名)現地の実習指導担当保健師21名を対象に学生のグループ実習報告書と個人レポートの記載内容、実習指導担当保健師へのアンケートを実施・分析し、実習目標の到達度(認知・情意・精神運動の三領域と学習深度)と「しま」での学びの特徴を検討した。	「地域住民の健康状態の把握」「地域の特性や強みを生かし住民が活用できる活動計画の必要性」「関係機関との連携や協働とそこでの看護職の役割」「看護観の発展について学習の深まり」
7	植田 悠紀子他 (2005)	看護学科における「総合実習;しまの健康」の実施と教育効果	これまでに3回の実施した看護学科の学習の総括として、上五島・下五島・老岐・対馬で4年次前期の「総合実習;しまの健康」の実習方法・実習効果を振り返る	看護学科の学習の総括として、上五島・下五島・老岐・対馬でこれまでに3回の実施した4年生の(学生配置12-21名/島)「総合実習;しまの健康」(8日間～12日間)を、学生の自己評価(健康ニーズの把握、実習の展開、他機関との連携、看護間の発展の項目をよくできた、できた、あまりできなかった、できなかったの4段階で評価する)による評価を分類整理する。	1.「学生の自主的な学習の促進」2.「他機関との連携の実際を知る」3.「各方面の協力を取り付けながら問題を迫る経験となり、看護に対する考えを深める」4.「協調性をもって地域のグループ活動に参加」5.「地域特性を理解」

表2 看護学教育モデルコアカリキュラム項目から見た学びの分類

看護学教育モデルコアカリキュラム 項目	学習効果
【A 看護系人材(看護職)として求められる基本的な資質・能力】	「地域で働く医療人に必要な資質」「実践力・地域力への貢献」「地域の力を活かし互いに連携協働していく看護力や実践力等を学習」 「島嶼への理解の深まり」「島嶼看護の魅力と理解」「学習力・教育力・看護力の向上」*「意識させられた学習の不足」*「明確になった地域医療に対する自己の意識」「自己への気づき」「学生の自主的な学習の促進」 「看護観の発展について学習の深まり」「学生が主体的に企画・実施し、評価まで行った健康教室における実践に対する高い満足度」「島民との交流が深まるにつれ、生活と健康との関連についての理解の深まり健康相談など実施」「触れたあたたかな心」
【B 社会と看護学】	「地域の実態の理解」「島しょの特徴を知る」「体験し見えてきた離島の暮らし」「島しょの定義・特徴」「他機関との連携の実際を知る」「各方面の協力を取り付けながら問題を追及する経験となり、看護に対する考えを深める」「協調性をもって地域のグループ活動に参加」「地域特性を理解」 「島しょの健康問題の理解」「島しょ活動を考える」「住民意識への環境の影響」「地域住民の健康状態の把握」「住民同士のつながりの中での生活の理解」「医療と福祉の資源の不十分」「居住者のつながり、相互扶助能力が健康と生活に与える影響」「利尻島の医療の現状」「医療福祉サービスを受ける人とかかわる体験」「地域の特性や強みを生かし住民が活用できる活動計画の必要性」「関係機関との連携や協働とそこでの看護職の役割」
【C 看護の対象理解に必要な基本的知識】	「自宅での居住生活を理解することの重要性」「利尻島の自然と人々の生活が密接につながっている感覚」「コミュニティーを知ることにより人を理解できること」「利尻島の人々の健康」 「利尻島の小学生が教えてくれた子どもの時空」
【D 看護実践の基本となる専門基礎知識】	「学習力・教育力・看護力の向上」*
【E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識】	「保健活動の実際」「診療所活動の実際」
【F 臨地実習】	「実習中に行った仲間づくり」
【G 看護学研究】	

(注)*重複記載を示す

が多かったAの【看護系人材(看護職)として求められる基本的な資質・能力】は、特に、看護職としての使命、役割と責務、看護学の知識と看護実践に関する内容が挙げられていた。さらに、5項目と3番目に項目が多かったCの【看護の対象理解に必

要な基本的知識】は、その地域に暮らす生活者としての人間理解の内容が挙げられていた。

離島は狭小性、環海性・隔絶性から生活全体が捉えやすく、保健・医療・福祉の人的・物質的資源が制限されているため関係職種の多機能化と連携協働

が学びやすい(堂下他, 2008.)。また, 学生自身が島での宿泊生活を体験することから住民の生活を捉えやすく, 医療・福祉・保健サービスが島内で完結していることから, 人々の健康を支えるサービスを捉えやすいと述べられている(河原他, 2004)。

つまり, 離島の状況を踏まえると, 離島での看護活動は, 島のおかれている地理的環境, 社会的環境と住民の健康課題の関係性を踏まえて考えなければならない。そして, 看護職者は, 限られた人的・物的・社会的資源を有効に活用し, 看護活動の展開を行うことが求められている。また, 離島は, コミュニティが小さいために, 人々の生活や関係性, そして保健・医療・福祉連携の全体像が見えやすく, 社会システムや地域ケアシステムが見えやすい環境であるため, 地域や住民に密着した看護活動が行いやすいといえる。反対に【E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識】【F 臨地実習】【G 看護学研究】の項目数が下位であったのは, 対象文献の離島実習の目的が離島という地域独特の現象・医療を観察・体験することであるためと考える。

一方, 治療が最優先の都市部にある病院という環境では, 患者・家族の「生活」を理解することは物理的に難しい(小林, 2016)ため, 離島と都市部というように地理的・社会的・人的環境の異なる臨地実習の経験は, 大きい学びが得られると考えられる。

以上のことから, モデルコアカリキュラムの大項目の【B 社会と看護学】、【A「看護系人材(看護職)」として求められる基本的な資質・能力】、【C 看護の対象理解に必要な基本的知識】に学びとして多く項目が挙げられたのは, 前述した離島がおかれている地理的・社会的・人的環境がその要因と推察される。

離島実習は, 地域独自の文化, 価値観, 生活様式等に触れ, 「生活者」であるということを実感して捉える体験が, 人間理解や社会システムを理解する能力を養う場となると考える。

2. 離島実習の課題

今回の研究対象地域は偏在しているが, 離島の特徴をみると交通では海による遮断があり不便で自然環境が厳しい, また, 医療においては専門職が少な

く社会的資源も乏しい, 産業も限られ経済的にも厳しさ, 自然災害など生活環境の厳しさがある。看護上の課題として, 【プライバシー確保の困難】【高い質の医療確保が困難】【マンパワーの不足】【緊急時の対応へのストレス】等が(中川他, 2016)が述べられている。

したがって, 学生が離島実習に参加することにおいて, 参加させる側も, 受け入れる側も, 双方とも十分な準備の必要性, 経済面の負担や交通の不便を考えると決して簡単なことではない。

一方, 離島では, 限られた社会資源の中, 保健師, 医療機関と連携し療養生活を支える工夫をし, 専門職の少ない人材の中で, 看護職の役割拡大をしつつ, 住民のもてる力を引き出し, 離島で療養生活を維持できるかどうか患者の生活の在り方を決める(野村他, 2011)ため, 内在している倫理的課題も検討し解決しなければならないと考える。

しかし, 離島は厳しい環境ではあるが, 都会で生まれ育った学生には短期間であっても離島での生活体験, 苦労する移動の体験等貴重な経験が, 限られた医療資源や環境の中で適切な医療や看護活動を実践する能力, さらに周囲と連携や協働するという看護職者としての必要な能力が育成できやすい場ではないかと考える。そして, 離島の看護活動に興味をもち, 課題であるマンパワー不足に貢献できることにつながればよいと考える。

以上のことから, 学生が講義・演習で得た知識・技能を実社会で活かすために, 必要な能力を体験的に学び, 種々の体験を継続的に積み上げるためにも課題もあるが, 離島での実習は有意義なものではないかと考える。

V. 結論

学士課程において, 離島における臨地実習の学びについて7件の文献を検討した結果, 以下のことが明らかになった。

モデルコアカリキュラムの大項目に沿って整理した結果, 抽出された学びは多い順に, 【B 社会と看護学】には, 「地域の実態の理解」「島しょの特徴を知る」「健康問題の理解」「島しょ活動を考える」「地

域住民の健康状態の把握」他14項目、【A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力】には、「地域で働く医療人に必要な資質」「実践力・地域力への貢献」「島嶼への理解の深まり」「看護観の発展について学習の深まり」他10項目、【C 看護の対象理解に必要な基本的知識】には、「自宅での居住生活を理解することの重要性」「利尻島の自然と人々の生活が密接につながっている感覚」他3項目であった。

一方、離島は、海による遮断があり不便で自然環境が厳しく、また、専門職が少なく社会的資源も乏しく、産業も限られ経済的にも厳しさ、自然災害など生活環境の厳しさがあるが、離島実習で得た体験は看護職者としての必要な人間理解や社会システムを理解する能力を育成するので有意義な実習であると考えている。

利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

文献

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会：看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～平成29年10月。 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf (閲覧日2020年9月1日)

堂下陽子, 山崎不二子, 古川秀敏, 他 (2008): 「総合実習：しまの健康」における実習展開に関する研究 アセスメント 健康問題 看護支援の分析から, 日本ルーラルナーシング学会誌, 3, 73-86.

河原加代子, 高石純子, 石田千絵, 他 (2004): 総合臨床地域看護学実習の評価 (その1), 日本民族衛生学会, 70, 102-103.

川崎道子, 宮地文子, 牧内 忍, 他 (2007): 「島しょ保健看護論」の授業評価 講義・演習・学外演習 (離島訪問) を通して, 沖縄県立看護大学紀要, 8, 25-31.

小林悦子 (2016): 「生活を支える看護」7つのポイントより 良い療養支援のために生活を支える看護を考える, コミュニティケア, 11月臨時増刊号, 54.

目良宣子, 中田智子 (2014): 地域看護活動論実習の現状と

課題 離島実習終了後の学生アンケートの分析結果より, 看護教育, 55(10), 954-959.

中川早紀子, 高瀬美由紀 (2016): 日本におけるへき地で働く看護師が直面する看護上の問題, 日本看護研究学会雑誌, 39(4), 105-113.

仲田みぎわ, 山田恵子, 高橋延昭, 宮下洋子, 片倉洋子, 他 (2010): 利尻島における離島地域医療実習から得た学生の学び-参加学生の実習後レポートの分析-, 札幌医科大学保健医療学部紀要, 12, 27-35.

野村幸子, 仲宗根洋子, 知念久美子 (2011): 本邦における島しょの看護に関する研究の動向, 沖縄県立看護大学紀要, 12, 131-138.

田野英里香, 石川 朗, 片倉洋子, 他 (2011): 医学部・保健医療学部1年生の離島地域医療実習における「気づき」実習後のレポートおよびグループ学習発表記録の分析から-, 札幌医科大学保健医療学部紀要, 13, 95-103.

植田悠紀子, 野口房子 (2005): 看護学科における「総合実習;しまの健康」の実施と教育効果, 県立長崎シーボルト大学看護栄養学部紀要, 5, 37-49.

山崎不二子, 堂下陽子, 松下幸子, 他 (2007): しまにおける総合実習での学びの到達レベルとその特徴, 日本ルーラルナーシング学会誌, 2, 37-47.

山崎不二子, 野口美和子, 大湾明美, (2016): 看護学士課程における島嶼看護学教育の効果と課題, 日本ルーラルナーシング学会誌, 11, 43-59.

Yonemasu A N, Inadome N (2019): 離島での地域看護実習による学生の学び (Students' Learning from Community-based Nursing Clinical Practice in a Remote Island), 鹿児島大学医学部保健学科紀要, 29(1), 91-95.